



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 395 号

(創刊 1988.12.14)

2022.08.07.

事業者との質問・回答会議 (6月30日)の概要報告

前回3月30日の後、再質問を出しており、6月30日にその回答会議を持った。概要は以下の通り。

(1) 桂台トンネルシールドマシン関連 ○夜間の掘削中止について

2月の再掘進開始直後は夜間も掘削していたが、沿線住民から夜寝られないとのクレームが多く寄せられて、掘削回転数を落とし夜間の掘削を止めているとのことであった。21時とか22時等夜の停止時間がまちまちとの指摘に対し、クレームの状況確認や説明を行い、何時だったらいいよ、との意向を受ける等でやっていると回答。

○シールドマシン工事時間を平日は8時から17時まで、日曜は休工要求を行った

平成27年の桂台トンネル工事計画説明会ではトンネル掘削は24時間連続であった。マシン掘削において振動騒音は生活環境に影響を及ぼす事態が生じたことが明らかになり、もはや、都市部でのシールドマシン24時間連続掘削は無理であり、他の工事と同じく平日は昼間帯の8時から17時に変更するよう要求した。

NEXCOの回答は「今のところ変更する予定は無い。騒音振動等迷惑をかけていることは確かなので住民の皆様にはお話をさせて頂きながら丁寧に対応して行きたい」と現状で続ける姿勢を見せた。

また日曜は原則休工との説明があった。

(一昨年7月に地元住民に説明したという)

既にマシンは桂台西の回転立坑に到着、数ヶ月後には反転して下り線の掘削に入る

訳であり、今後も平日の昼間帯での工事への変更を要求していく。

○夜うるさいようなら宿泊所を斡旋すると 言ったことの組織の責任を追及した。

NEXCOの工務課長は「私が前回、説明が不足していたのかも知れない」と言ったことは、前工事長のマシンは連続でやる、騒音振動のことは一言も触れなかったとの住民指摘に対して、そうだとすると説明が不足していた、ということであり、私は宿泊所の斡旋については触れていないし否定もしていない。宿泊所は前工事長が述べたことと変わっていない、要望があれば検討させていただく」と回答があった。

シールドマシンの掘進に関連して振動騒音に耐えがたいようであれば宿泊所の斡旋要請は可能ということでした。

南線工事が始まった当初に西ヶ谷地区の夜間仕事の住民が昼間の睡眠時間帯に土砂運搬ダンプトラックの走行騒音が激しく、耐えかねて転居した事例もあります。要請があれば検討すると言っているのだから、我慢する必要はありません。

○夜寝られないのなら睡眠薬をあげましょ うかと言われた問題 (6月連協ニュース)

NEXCOの工務課長から「この話が本当だったらえらいことなので確認した。結果はこちらから飲みますか?とは一切申し上げていない。話の中で先方の方から、睡眠薬を飲めと言われても、というような話があったとのこと」とのクレームがあった。

当方は記事掲載に際して十分確認しており、事業者が後から介入して「言った・言わない」の議論にすり替えようとしているのであって、何なら立ち合いの上当事者間での確認を申し入れたが、そこまでは、と不成立となった。

(2) トンネル区間（飯島坑口～

釜利谷開口部）のNOx 排出量問題

換気システム変更により釜利谷開口部からは全トンネル排ガスの約40%が放出され、庄戸地区への排ガス汚染問題を追及してきた。今回、釜利谷開口部（50m長さ、上・下線の隔壁は無い一つの穴）におけるトンネルから放出された排ガス挙動の模型実験を行い、約50%が再び車の走行に伴ってトンネル内に入って行き（上り線で開口部に来たもの一部が再び下り線に戻っていく）残りの約50%が釜利谷開口部から排出されることで計画しているとの説明があった。

また、公田換気所では換気所口に集まった排ガスのうち約46%は車の走行に伴って、換気所からの排出量は54%しかないとことであった。そうだとすると換気所では約半量しかトンネル排ガスを処理できないことであり、何の為の換気所か疑問である。引き続きトンネルからの発生排ガス量と換気所等4つの排出口からの排出量を確認していきたい。（事務局長 長谷川誠二）

湘南桂台地区の家屋・健康等 被害状況調査について

シールドマシンは7月13日に桂台第4公園まで掘り進みました。湘南桂台地区では4月4日から7月3日にかけてアンケート調査の2回目と3回目を実施しました。対象軒数164軒に対し回答数38軒（23.2%）と第1回の回答率（38.9%）に比べ15.7%も減少しました。

第1回のエリアでは最大39.5mあった土被りが第3回では22m弱と半分近くまで浅くなりましたが、事業者が騒音・振動に気を使い夜間、休日の掘進を停止したことで騒音・振動に対する不快・苦痛・辛い等の被害数は第1回の8件（22%）が第2回3回では合計3件（8%）、家屋・外回りへの具体的な被害申し出も第1回の10件（27%）が第2回3回合計で4件（11%）と夫々半分以下に減少しました。

シールドマシンは7月28日に桂台西地区へ入りましたが、それに併せ回転立坑周辺を対象にアンケート調査を進めています。

この地区では基地造成工事或いは換気所造成工事で山を削る工事により大きな騒音・振動被害が出ているのではないかと懸念しています。（桂台トンネル騒音・振動・低周波音被害調査グループH.0）

道路全国連 幹事会報告

7月30日（土）に例年通り名古屋で開催の予定でしたがコロナ第7波の影響で急遽zoom参加による開催となりました。

初めに今年度の全国交流集会を10月30日（日）に吉祥寺で開催することを決定し、東京経済大学名誉教授の磯野弥生さんをお呼びして公共事業のあり方を再度話し合いその方向性を確認することとしました。東京外環道の大深度法や横環南からも長年の活動を通して土地収用法など現在の法体制が住民のためのものになっておらず、事業者のためのものであり運動に対する責任として今後を引き継ぐことが大切であるとの意識の共有がありました。

その後各地報告に移り全国から8地区の報告がありました。連協からは長谷川事務局長がまとめられた「横環南報告この一年」をnet上で公開しシールドマシン事故や運転再開後の諸問題を挙げ、脱硝装置の要請、釜利谷の排気ガス問題など国交省をはじめ事業者との交渉経過を報告しました。

（会長 比留間哲生）

【対外活動報告】

- 07/07 道路全国連国交省要請行動
（公害総行動、会長参加）
- 07/23 外環道、大深度地下トンネル工事による建物損傷 —その全容を把握するための住民調査・中間報告会
（三鷹、会長・大橋副会長オンライン参加）
- 07/30 道路全国連幹事会オンライン会議
（会長参加）
- 08/01 公共事業改革会議世話人会
オンライン会議（会長参加）
- 8/03 連協による国交省道路局要請行動
（会長、事務局長参加）